

メモランダム 読者と編集者 (RE)

論文投稿区分の変更について

論文誌編集委員会では、現状の論文区分について次のような問題点があると考え、この数日に渡り改訂の方向について検討を続けてきました。

1. **品質の問題**：区分が多すぎ、かつそれぞれの査読基準が明示されていないために、査読者の査読基準への理解がばらつき、結果として論文品質のばらつきが大きい。
2. **数量の問題**：投稿が少なく、論文区分として定着していない区分がある。(過去10年に、萌芽的研究は投稿10報で掲載2報、文献研究は投稿2報で掲載1報)

以上に対して、昨期(29期)に次のような論文区分改訂方針に基づき、

1. 区分を簡潔化し、それぞれの区分の査読基準をチェックシートとして明瞭にすることで、査読者間の査読基準のばらつきを小さくする。(品質向上)
2. 概念が定着しなかった萌芽的研究を廃止するとともに、文献研究の概念を拡張し、調査研究として投稿の活性化をはかる。(活性化)

表1に要旨を示す論文区分変更案を取りまとめました。そして、先日の総会において、本案が「日本経営工学会論文誌論文投稿規程」の改訂として正式に承認されました。これに従い今期からは新しい論文区分で論文の受付を行うこととなります。なお、参考までに、表2に旧区分との対応関係を示しておきます。また、この改訂の機会に、論文投稿の方法に関して、以下の変更を行います。

1. 論文執筆細則(後掲)を新たな投稿区分に合わせ改めるとともに、記述を大綱化して簡潔にしました。
2. 論文区分に対応したpLaTeXのクラスファイルとサンプルファイルを和文用と英文用に準備し、学会ホームページ上に公開しました。pLaTeXによる投稿原稿およびそれと同等な原稿はカメラレディ原稿として掲載料金を低く設定しています。ご利用ください。
3. 査読プロセスの迅速化を目指し、電子ファイルでの投稿を可能にしました。メールで編集委員会事務局へ送付していただく形となります。執筆細則をご確認の上、ご利用ください。
4. 論文執筆のチェックシートを改めました。オリジナリティの評価について、論文区分ごとに異なる基準を利用することとします。著者が記入したシートは査読者にも送り、査読者に著者によるチェック結果を踏まえた評価を記入していただくようにします。なお、査読は、論文区分ごとのオリジナリティ評価を行います。論文誌上では単に原著論文と研究速報と表示することとします。
5. CD-ROMによる英文号の年二回の発行に対応して、英文の執筆細則を準備しました。海外からの投稿も容易な論文誌としていきたいと考えます。英文論文の積極的な投稿を歓迎します。海外研究者へ投稿の推奨をお願い致します(ただし、著者の一人が会員である必要があります)。

以上の変更された諸規定やフォームには学会ホームページからアクセスできます。ご確認ください。

今回の改訂の下に、今まで以上に活発で高い品質での投稿を期待します。 論文誌編集委員会

表 1 : 新論文区分 (2009 年 5 月改訂の論文投稿規程の要旨)

論文区分とその考え方	査読掲載の方法と標準頁数
<p>1) <u>原著論文 (Original Paper)</u></p> <p>1-a) <u>調査研究 (Review & Survey)</u> : 文献調査, 実態調査などの調査結果に含まれる問題, 手法, 事実に対して, それをオリジナルな視点で体系的にまとめた研究で, 新しい知見や研究の枠組みの構築に学術的な価値を有するもの.</p> <p>1-b) <u>理論・技術 (Theory & Methodology)</u> : 科学的・工学的手法を用いて, 問題解決の新しい方法論や原理原則を明らかにした研究で, 解析, 実験, 計算, 考察などにおいて学術的価値を有するもの.</p> <p>1-c) <u>事例研究 (Case Study)</u> : 現場における問題を取上げ, 既存の方法論や原理原則を問題の特徴にあわせて工夫して適用し, 利用効果を客観的に評価した事例の研究で, 波及効果が認められるもの.</p>	<p>2名の審査委員 (レフェリー) の審査結果に基づいた担当エリアエディタの提案を受け, 日本経営工学会論文誌編集委員会が決定する. ただし, 第三者 (審査員) の専門家に依頼してコメントを求めることがある.</p> <p>刷り上がり 6 ページを基準とする.</p>
<p>2) <u>研究速報 (Research Letter)</u></p> <p>新規性のあるモデルや手法, 有効なデータや資料, アプローチなどの報告.</p>	<p>1名の審査委員の審査結果に基づいた担当エリアエディタの提案を受け, 編集委員会が決定する.</p> <p>刷り上がり 4 ページ以内とする.</p>

表 2 : 論文区分案 新旧対照表 [()内は英文表記]

従来			改訂後	
大分類	小分類	目次表示	種類 (目次表示)	区分
全般論文 (General)	萌芽的研究	論文 (original)	原著論文 (Original Paper)	調査研究 (Review & Survey)
	文献研究			理論・技術 (Theory & Methodology)
技術論文 (Methodology)	理論(基礎)研究			
	応用研究			事例研究 (Case study)
事例研究 (Case study)		事例研究 (Case study)		
提案論文 (Proposal)		提案論文 (Proposal)	研究速報 (Research Letter)	